

# 概 報 ・ 速 報

553,672 : 550,85 (522.6) : 622,367.2

## 大分県津久見市青江宮崎礦業株式会社

### 苦 灰 石 鉱 床 調 査 報 告\*

井 上 秀 雄\*\*

#### Résumé

#### Dolomite Deposits at Southwest of Tsukumi-shi, Oita Prefecture

by

Hideo Inoue

1. Some dolomite deposits are found from 6 km southwest of Tsukumi stations, Nippo line, Kyushu.
2. The rocks of this district consist of Paleozoic sandstone, slate and limestone, striking N 50-80°E and dipping 40-75°SE.
3. Dolomite deposits occur in the limestone bed, formed as lenticular, some of which are workable.
4. Ore reserves are estimated to 1,000,000 t and the average grade is 17%MgO.

#### 要 約

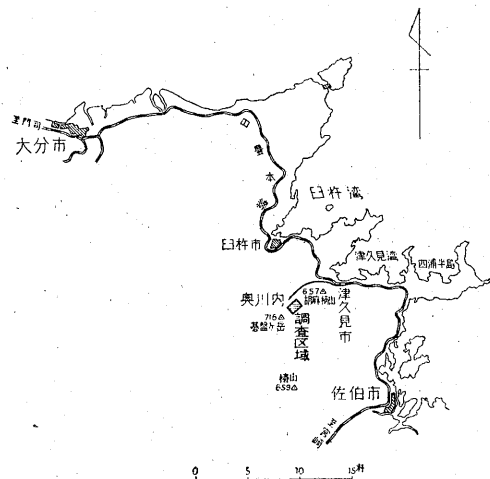
今回宮崎礦業株式会社の要請により調査した苦灰石鉱床は大分県津久見市青江にあり、日豊本線津久見駅の南西方約6kmの位置に当る。附近の地質は秩父古生層に属し、主として砂岩、頁岩互層、および石灰岩層よりなり、走向はN50~80°E、傾斜40~75°SEである。石灰岩層中には大小のレンズないし帯状の砂質頁岩および珪岩を夾在する。苦灰石鉱床は石灰岩層中、その走向方向に延びたレンズないし帯状をなして胚胎するが差当り稼行の対象となしうと思われる部分(賦存率45%以上)は数カ所に限られる。鉱量計算はかかる7カ所について行い予想鉱量合計100万t余を算定した。なお品位はMgO17%程度は確保できる見込みで将来性は大きいと思われる。現在未稼行であるが近々同会社により着手の予定である。

#### 1. 緒 言

筆者は宮崎礦業株式会社の依頼により大分県津久見市青江字奥山附近の苦灰石鉱床の調査を行った。ここに取敢えずその結果を報告する。

\* 宮崎礦業株式会社依頼調査、発表許可昭和27年10月

\*\* 鉱床部



第1図 宮崎礦業株式会社所有苦灰石鉱床位置交通図(縮尺1:20,000)

#### 2. 位置および交通

調査区域は大分県津久見市青江字奥山附近でその面積は約35km<sup>2</sup>である。当地区に至るには日豊線津久見駅にて下車、その南西下青江小園、長野兔丸等の部落をへて奥川内に達する。その間約6kmの道路は自動車を通じうる。

### 3. 地 形

鉢床は胡麻柄山 (657m) と碁盤嶽 (716.3m) とを連ねる山稜の北西側に当り、海拔400~700mにかけて分布している。地形は甚だ急峻で斜面の平均角度30°である。附近の石灰岩地帯は特有のカルスト地形を呈している。当地区の水系、山系の発達方向は一般にN60°Eに延びるものが多い。

### 4. 地 質

地質はいわゆる秩父古生層の砂岩頁岩互層、頁岩質砂岩、珪岩、石灰岩より構成され、その走向N50~80°E、傾斜40~75°SEであるが時に走向EW、傾斜30~90°Eを示すことがある。地質構造は簡単な単斜構造を呈し、断層褶曲はほとんど認められない。

#### 4.1 砂岩頁岩互層

本層は当地区の北部で厚さ400m以上、海拔約(200~400m)附近で石灰岩と界している。本層は頁岩中に砂岩がレンズ状~帯状をなして挟在し互層状をなしてい

る。石灰岩に近くなるに従い漸次砂岩は量を減ずる。砂岩は中粒硬質で暗灰~灰青色を呈する。頁岩は剝理性のある千枚岩質なもので灰黒~黒褐を呈する。

#### 4.2 頁岩質砂岩層

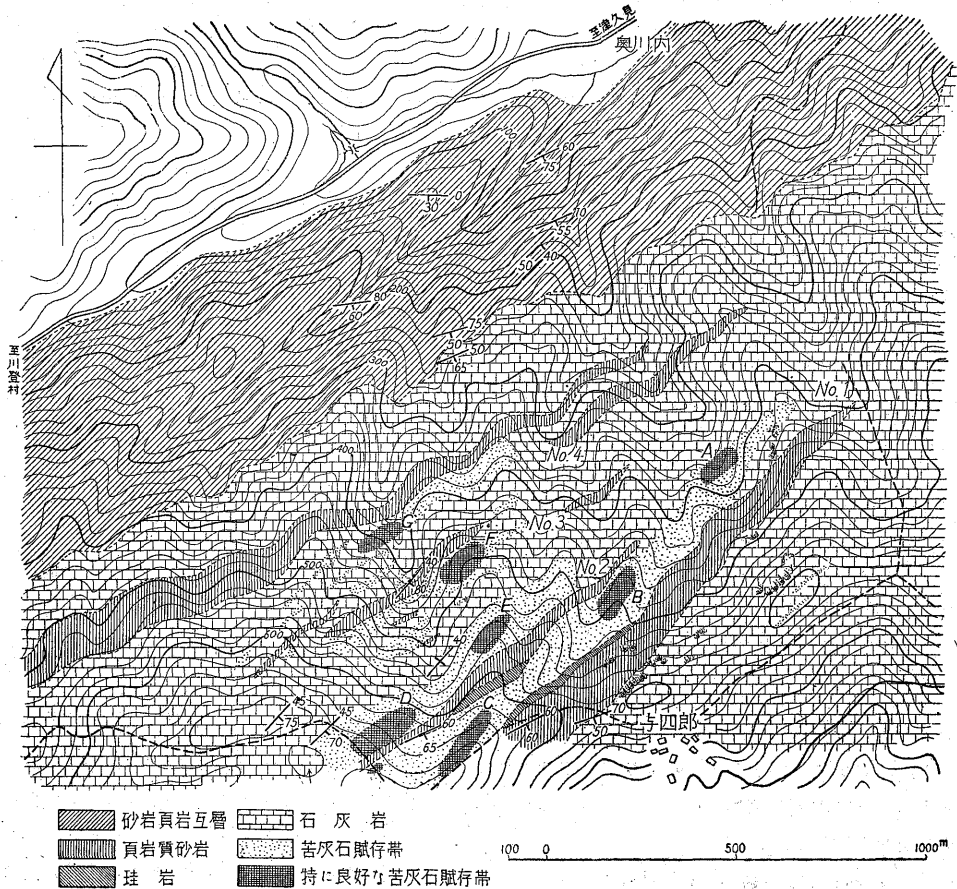
頁岩質砂岩は石灰岩層中に小は10m大は150m、の厚さで夾有されるがその先端はレンズ状となり尖滅するのが常である。本層を挟む部分の地形は石灰岩層の地形と比較して緩傾斜を呈するので地形的に判別できる。本層は層理を示し黒褐色~灰黒色を呈する。

#### 4.3 珪岩層

巾10m程度の珪岩が海拔520~600m附近興四郎部落の北西傾面に2~3層断続して露出している。岩質は緻密暗黒色~灰黒色半透明を呈し亀裂に富む。部分的に透明度なく白色を呈することがある。

#### 4.4 石灰岩層

石灰岩層は本地区の東南半を占め、海拔約200~400m附近で砂岩頁岩互層と界している。その走向N45~70°E、傾斜50~80°Sである。本層中には上記頁岩質砂岩層お



第2図 宮崎礦業株式会社苦灰石鉢床附近地質図

大分県津久見市青江宮崎礦業株式会社苦灰石鉱床調査報告 (井上秀雄)

番号	地質図 に示す	位置	走向	傾斜	延び	厚さ	鉱量計算の対象となる 個所地質図に示す
No. 1		海拔 680~360m	N60° E	60°SE	1,500 <sup>m</sup>	100 <sup>m</sup>	A, B, C.
No. 2		660~500m	N60° E	70~65°SE	800	100	D, E.
No. 3		520~460m	N45° E	80°SE	600	40	F.
No. 4		400m	N60° E	90°	500	130	G.

よび珪岩を挟有し苦灰石鉱床も賦存している。石灰岩の厚さは1,000m以上延長は調査区内だけでも2,000m以上に達している。岩質は灰白色非晶質で時に灰黒色を呈するものがある。稀にフズリナを含んでいる。

5. 鉱床

鉱床は石灰岩を交代した苦灰石で個々の鉱床はかなり不規則な形態を呈するが全体としては石灰岩の走向とほぼ同方向の帯状またはレンズ状を呈した鉱床賦存帯を形成しており、その範囲は山地の中復から山稜にかけて巾700m延長1,5000mにわたっている。各鉱床は数ヶの峯を横切り断続、膨縮して賦存帯を作るがこのような賦存帯が当地区内に数條認められる。

次に主な苦灰石賦存帯を南部より北部に列挙すれば次の通りである。

此の外に無数の露頭があるが石灰岩と複雑に混り合い稼行対象としてまとまつていないので考慮外とした。

6. 鉱石

当地区の苦灰石中高品位 (MgO 17%以上) と思われるものは肉眼的に4種に分けられる。

- 1) 白色微晶質でガラス光沢を呈するもの。
- 2) 1)のものにやや黄色を帯びるもの。
- 3) 灰色を帯び微晶質ガラス光沢を呈するもの。
- 4) 白色非晶質であまり光沢を呈しないもの。

低品位と思われる鉱石は石灰岩と混り方解石の細脈を混えるもの、灰色の細脈(頁岩質のもの?)を有するもの等で全体として灰色を呈する。なお部分的に苦灰石と石灰岩とが35:100の割合で混交しているがその状態が複

No.	SiO <sub>2</sub> %	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> %	MgO %	CaO %	I <sub>gloss</sub> %	Total
6	1.31	0.15	19.31	32.64	45.92	99.33
8	0.74	0.16	17.93	34.73	45.72	99.28
14	0.54	0.05	20.11	32.30	46.36	99.36
15	0.27	0.07	20.53	31.96	46.62	99.45
17	3.36	0.14	18.11	32.92	44.76	99.29
20	0.36	0.09	19.19	33.43	46.22	99.29
21	0.86	0.24	20.32	31.68	46.45	99.55
26	1.26	0.07	0.64	54.18	42.40	98.55

地質調査所化学課分析

雑であるため稼行には値しないと思われるものがある。石灰岩と苦灰岩を識別する場合石灰岩の風化表面は平坦であるが苦灰石の表面はそれと比べて甚だ小皺(俗に象皮または縮緬と呼ぶ)が多く容易に見分けられる。

7. 鉱量

鉱体の厚さの小さいものおよびまとまりの悪いものは除外した。なお鉱量の算出は露天掘作業が可能と思われる部分に限った。(比重=2.7)

A地点

延長約100m 平均厚さ40m 高さ25m

賦存率65% 予想鉱量17.5万t

B地点

(1) 延長約40m 平均厚さ15m 高さ10m

賦存率60% 予想鉱量0.97万t

(2) 延長約200m 平均厚さ50m 高さ20m

賦存率30% 予想鉱量16.2万t

C地点

延長約200m 平均厚さ40m 高さ20m

賦存率40% 予想鉱量46.7万t

D地点

延長約200m 平均厚さ60m 高さ20m

賦存率50% 予想鉱量22.4万t

E地点

延長約120m 平均厚さ50m 長さ10m

賦存率25% 予想鉱量4.05万t

F地点

延長約130m 平均厚さ80m 高さ20m

賦存率40% 予想鉱量22.4万t

総合計予想鉱量 136.22万t

8. 現況その他

8.1 作業計画

現在作業は未着手の状態であるが地質図のG地点まで(海拔400m)道路を造りここに掘場を設置する計画である。

8.2 鉱業権

新鉱業法による鉱業権は未設定であるが現在出願中である。

3. 鉱区所有者

宮崎鉱業株式会社

4. 事務所所在地

大分県臼杵市および大分県津久見市大字下青江 206 番地

あり、品質も良好で広範囲に分布するため将来性は甚だ大であると思われる。搬出は陸路 6 km 余で津久見港に達し、それより同社所有の船舶にて海上輸送するため甚だ有利である。開発上不利と思われる点は鉱床位置が急傾斜で比高の大きい位置にあるため道路までの搬出がやや困難なことである。 (昭和 26 年 2 月調査)

9. 結 語

当地区の鉱床は附近の他の苦灰石鉱床より規模が大で